

武蔵浦和駅周辺地区義務教育学校開校準備委員会 第7回 本部会

令和8年5月29日（金）

午後5時30分～7時45分

於 さいたま市立沼影小学校2階プレハブ

次 第

教育長挨拶

【議事】

- | | | |
|---|--------------------------------|---------|
| 1 | 第二期開校準備委員会について | p. 3- 9 |
| 2 | 第一期開校準備委員会の意見交換内容について | p.10-15 |
| 3 | カリキュラム WG からの報告（日課表・クラブ活動について） | p.16-18 |
| 4 | 学識経験者より | |
| 5 | その他 | |

武蔵浦和駅周辺地区義務教育学校開校準備委員会 本部会

第 7 回 (第二期①)

令和 8 年 5 月 2 9 日
教育委員会事務局 武蔵浦和駅周辺地区義務教育学校開校準備室

- 1 第二期開校準備委員会について
- 2 第一期開校準備委員会の意見交換内容について
- 3 カリキュラムWGからの報告（日課表・クラブ活動について）
- 4 学識経験者より
- 5 その他

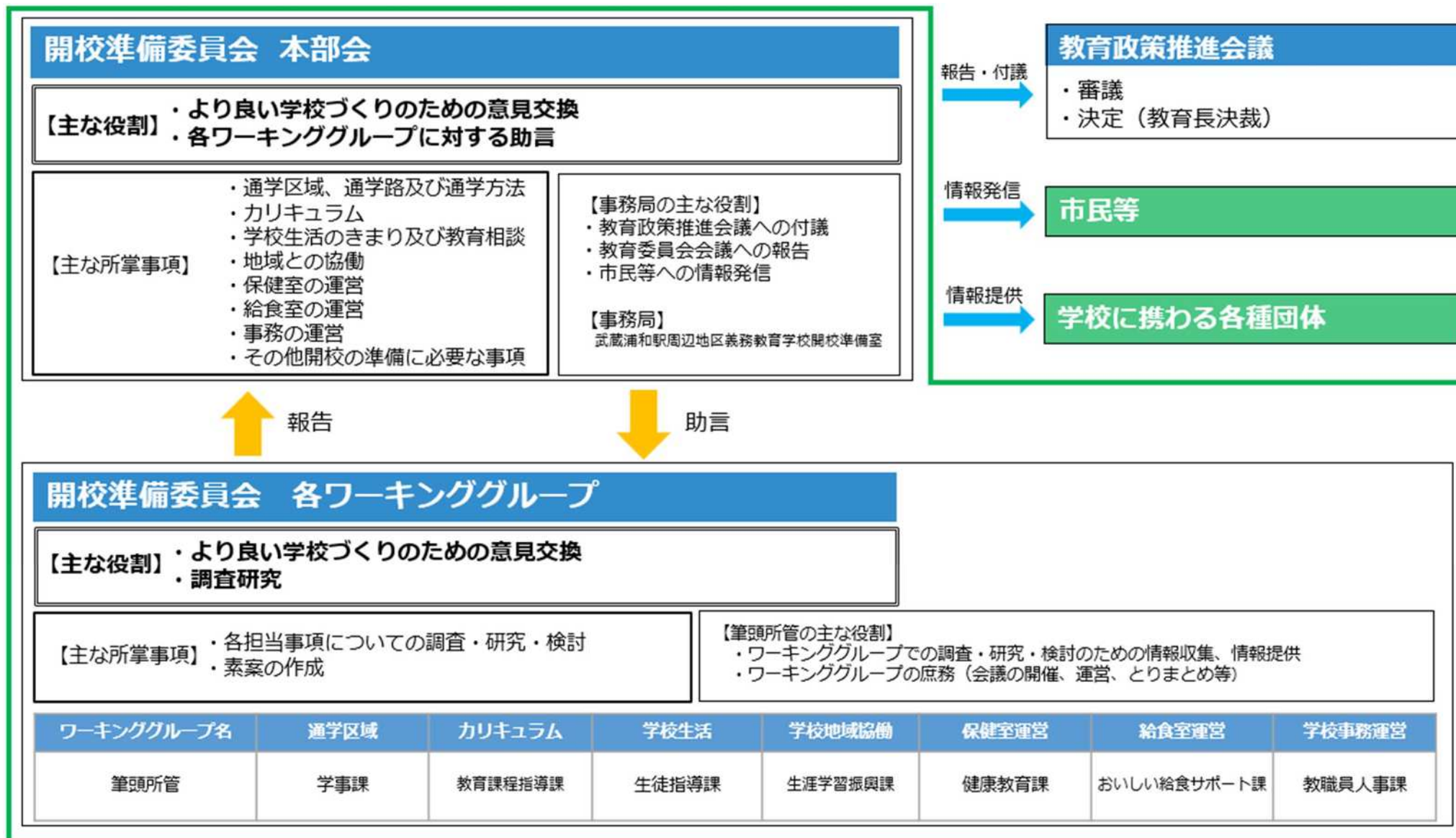
1. 第二期開校準備委員会について（第二期開校準備委員会概要）

■ 本部会の活動方針について

- 第二期本部会では第一期に引き続き、各WGの調査研究の報告への助言や、種々テーマにおける意見交換を引き続き継続していきます。
- また、本部会の意見交換では、主に「未来の姿」の柱実現に向けた意見交換を行います。3つの柱を関連付けたテーマでそれぞれ意見交換を行い、各WGの調査・研究の際の参考としていきます。
- 意見交換のねらいとしては、子どもたち一人ひとりがエージェンシーを発揮し、子どもたちが安心して生活できる学校づくり、9年間のつながりの中で成長できる学校づくりを目指すために本部会として、子どもや保護者、地域の皆様からのご意見をいただきながら、義務教育学校に関わる全ての人のWell-beingを目指す学校づくりになげたいと考えています。

1. 第二期開校準備委員会について（組織図、設置要綱・要領について）

【第二期 武蔵浦和駅周辺地区義務教育学校開校準備委員会 組織図】



※ 設置要綱、要領は別紙参照

1. 第二期開校準備委員会について（本部会・各WGの予定について）

■ 本部会・各WGの意見交換・調査研究概要

	主な意見交換・調査研究内容
本部会	・意見交換（未来の姿を抛り所とした意見交換、各WGの調査研究に向けた意見交換） ・随時各課より進捗報告
通学区域WG	・通学路について（安全対策の検討、通学路案提示、フィールドワーク） ・通学方法について（通学方法の検討）
カリキュラムWG	・部活動について ・異学年交流について（ねらいと活動例、校舎間の交流） ・児童生徒会活動、委員会活動について（ねらいと活動例、校舎間の交流） ・学校行事について（ねらいと活動例、節目の行事、体育的・文化的行事） ・カリキュラム、部分的に試行を開始
学校生活WG	・校則、生活のきまりについて（運用の検討、研究） ・さわやか相談室、S o l a ーむについて（運用調査、調査に基づく運用研究）
学校地域協働WG	・学校運営協議会、PTA、チャレンジスクール、SSNについて（実態調査、部分的な仮説検証、運用研究）
保健室運営WG	・保健室運営、学校保健に係る検討・素案の作成 ・諸帳簿に係る検討、素案決定 ・学校安全等に係る検討（学校安全ネットワーク検討、危機管理マニュアル検討等）
給食室運営WG	・給食施設について（施設及び機器について） ・給食室運営について
学校事務運営WG	・新校舎に係る必要物品調達について ・既存校舎改修について ・校内インフラについて

1. 第二期開校準備委員会について（情報の取扱い等について）

【会議の公開について】

	会議の公開 (傍聴)	会議概要等の公開 (市HP)
本部会		○
ワーキング グループ		

本部会の意見交換の内容については、「開校準備委員会通信」でも公開しています。



【個人情報の取扱いについて】

参加者選出の際にいただいた個人情報は、本会議に関する事務以外の目的には使用しない。

1. 第二期開校準備委員会について（本部会 会長・副会長選出）

設置要綱第 6 条

■ 会長・副会長の選出方法について

- ・ 本部会の会長は本部会の参加者の互選
- ・ 副会長は本部会の参加者から会長が指名
- ・ 会長は、必要に応じて複数名の副会長を指名可

■ 会長・副会長の役割

- ・ 会長は、会務を総理する。
- ・ 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。
- ・ 複数名の副会長のいる場合、会長が予め指名した順序で、その職務を代理する。

1. 第二期開校準備委員会について（「未来の姿」の柱実現に向けた意見交換について）

- ・意見交換①「子どもの意見を取り入れる取組について」

子どもの意見を取り入れたほうがよい活動等について意見交換



実際に子どもの意見を聞く取組（アンケート調査・意見聴取等）を実施し、事務局での調査研究に活用（子どもの意見の生かし方について素案の作成へ）

- ・意見交換②「9年間ならではのたくさんの繋がりを創出する取組について」

義務教育学校9年間を通じて校舎内・校舎間での交流などの、望ましい在り方について意見交換



意見交換の内容を踏まえ、事務局で活用（校舎内・校舎間の活動について素案の作成へ）

- ・意見交換③「繋がりがあふれる地域の拠点となる学校づくりについて」

学校と地域との関わり方について意見交換



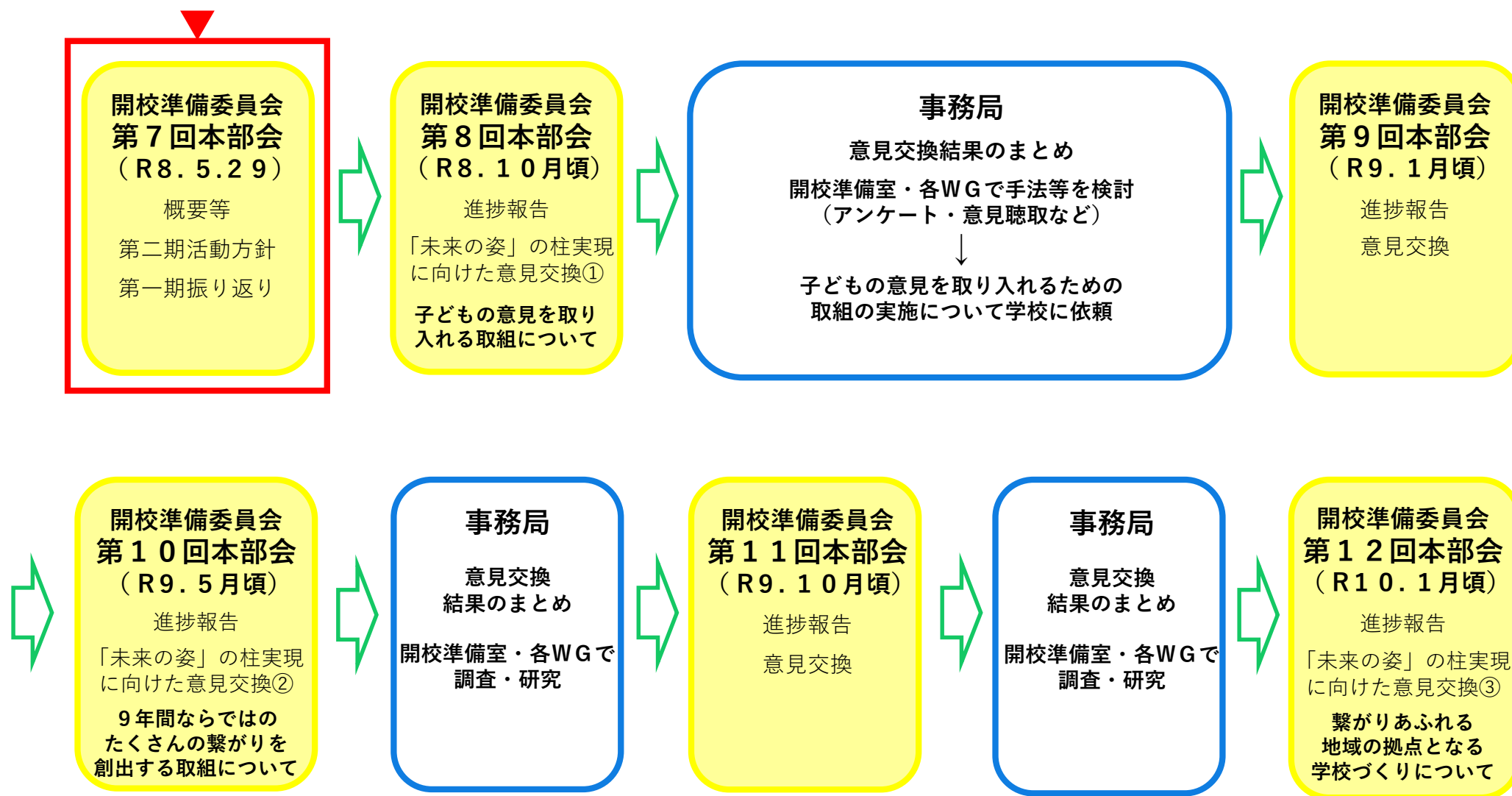
意見交換の内容を踏まえ、事務局で活用（学校・地域の交流活動案素案の作成へ）



作成した素案は、開校後の学校運営の参考として活用していく

1. 第二期開校準備委員会について（本部会のスケジュールについて）

■ 本部会スケジュール



2. 第一期開校準備委員会の意見交換内容について

■ 本部会

●武蔵浦和駅周辺地区義務教育学校の「未来の姿」

本義務教育学校の教育活動について、学校・家庭・地域・行政が連携・協働して開校準備を進める際に、本義務教育学校の目指す姿としての拠り所とするもの。

（経緯）

開校に向けて、児童生徒・教職員・保護者・地域の方々の思いや願いを理解し、地域に根差し愛される学校づくりを推進するため、アンケートを実施した。

- ・実施時期：令和7年2月
- ・回答状況：合計4,151名（うち 子ども 3,532名 大人 619名）
- ・調査対象：関係6校の学区に在住又は関係6校に通学、勤務している方

アンケート結果の分析後、令和7年度の本部会において意見交換を重ね、令和7年10月の本部会にて共有した。

2. 第一期開校準備委員会の意見交換内容について

武蔵浦和駅周辺地区義務教育学校の「未来の姿」

- ・9年間の一貫した教育活動を通して、子どもが中心となり、すくすく伸びやかに育つ学校
- ・9年間ならではのたくさんの繋がりの中で、多様な価値観をもつ一人ひとりの可能性が伸び、広がる学校
- ・多様な人材が交流し、地域から愛され、繋がりあふれる地域の拠点となる学校



■ 子ども（児童生徒）が学ぶ場として

- 9学年の幅広い交流の機会を通して一人ひとりの可能性を広げられる学校
- 9年間を見通し、小中の繋がりを意識した系統立てられたカリキュラムが編成されている学校
- 校舎内・校舎間(縦の繋がり・横の繋がり)から生まれる多くの交流を通じ楽しく勉強でき居心地のよい学校
- 各校の良さを残しつつ、9年間の縦の繋がりを通じて健やかにのびのびと安心して過ごせる学校

■ 地域の核（拠点）として

- 地域から学び、地域も学ぶ学校
- 子どもたちと地域との活発な交流で、9年間をわくわく主体的に学べる学校
- 学校を中心にした絆が地域の力を高め、人々に安心と生きがいを与える学校
- 笑顔とあいさつで地域の交流が豊かになり、皆で助け合う気持ちが高まる安全・安心な学校
- 親しみと愛着で地域から愛され、誰にとっても生涯の学びの拠点となる学校

■ 子ども（児童生徒）が学校生活を営む場として

- 多様な考えや価値観を尊重し、活かすことができる学校
- 教職員の目が行き渡り、子どもたちに寄り添う学校
- 安全に登下校ができ、学校内においても安全に生活できる学校
- 日頃から1～9年生が協力し合って生活し、多くの交流の中で絆を深められる学校
- 校舎間の交流を通じ互助的な精神を育成する学校

■ 教職員の役割と働く場として

- 小・中・校舎間の垣根を越えたそれぞれの教職員の交流による新たな連携と進化を生む学校
- 子どもに信頼され、適切に関われる教職員集団である学校
- 9年間の成長を教員・地域・保護者のチームとして見守る学校

2. 第一期開校準備委員会の意見交換内容について

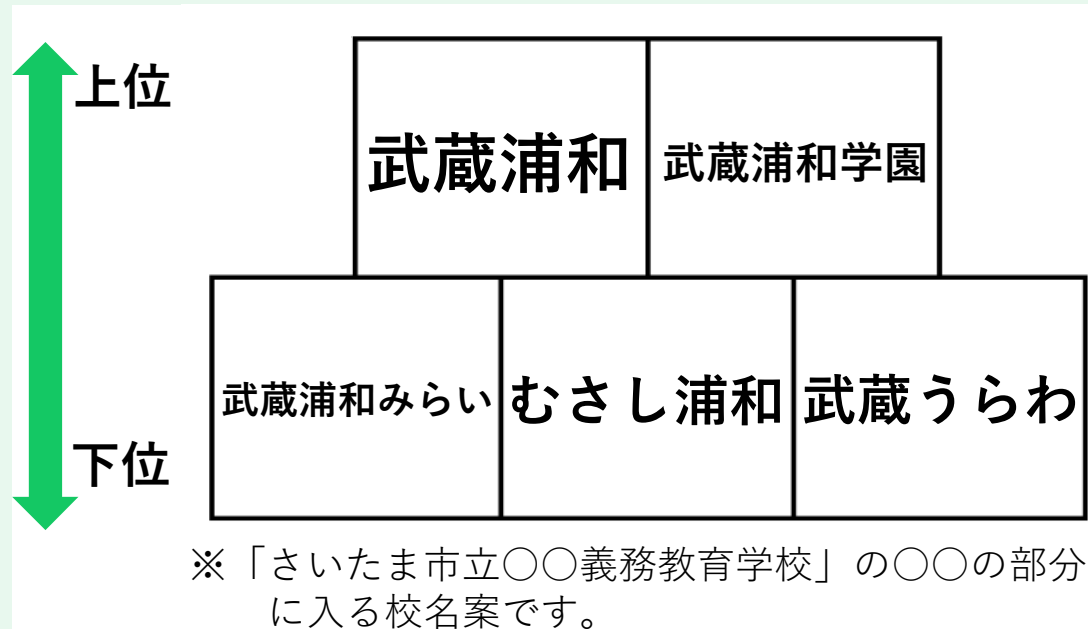
■ 本部会

●校名案の絞り込み

校名・移行イベントWGが行った絞り込みの結果10案をもとに、第7回本部会で5案に絞り込んだ。

上位2案、下位3案の計5案を「開校準備委員会の意見交換の結果」として共有した。

(右図参照)



<校名案の進捗について>

本義務教育学校の校名を検討するために、教育委員会に「武蔵浦和駅周辺地区義務教育学校校名検討委員会」を設置



上記「開校準備委員会の意見交換の結果」を参考に、校名案の検討の1回目を実施

(令和8年3月)



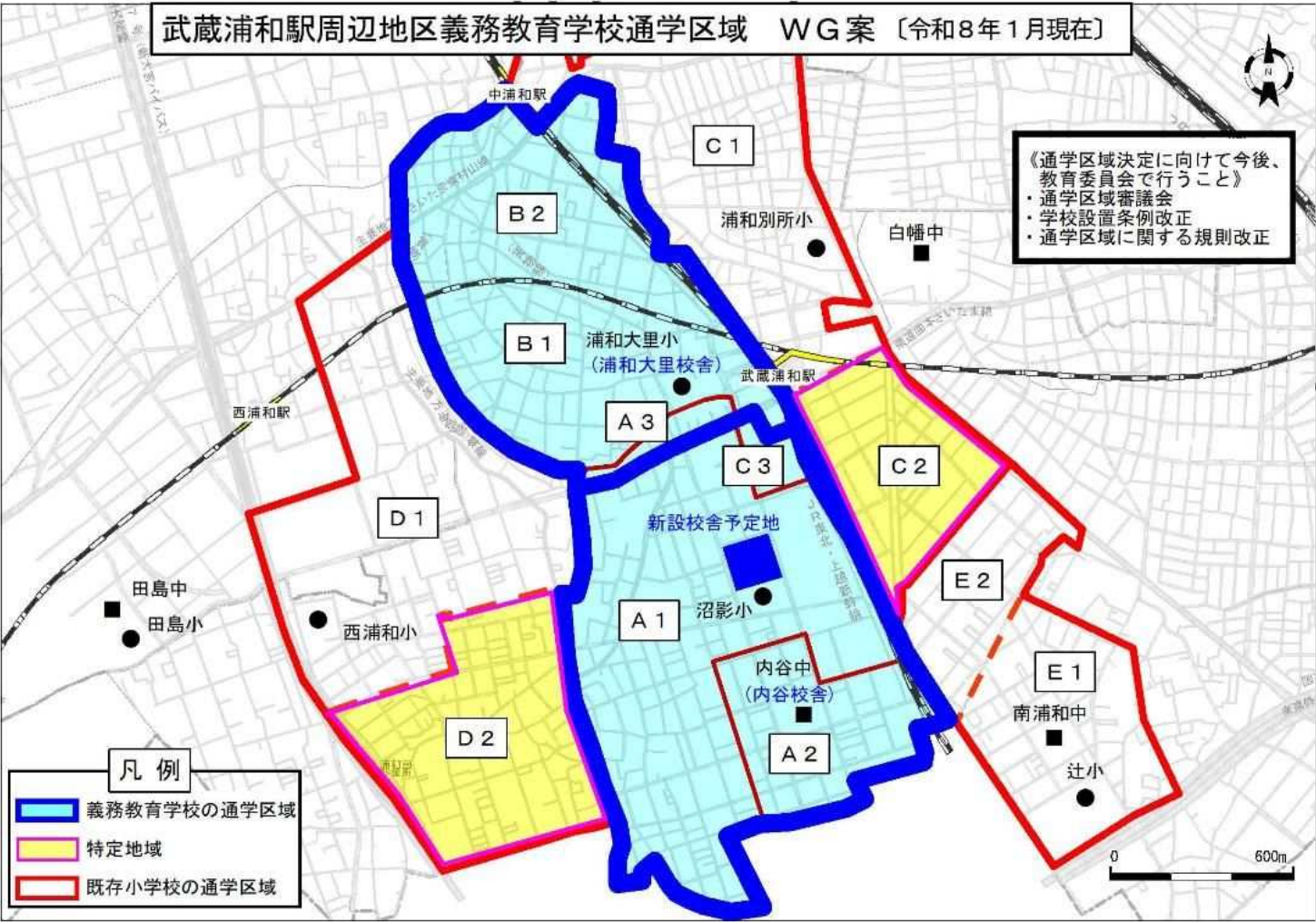
今後、1案に絞り込む検討を実施し、学校設置条例案として市議会に提出する予定

2. 第一期開校準備委員会の意見交換内容について

ワーキンググループ

●通学区域

令和4年11月に示した事務局当初案を基に意見交換を重ね、ワーキンググループ（WG）の通学区域の最終案として整理した。



	義務1年～4年	義務5年～9年
A1	内谷校舎	新設沼影校舎
A2		
C3		
A3	浦和大里校舎	
B1		
B2		

	小1～小6	中1～中3
C1	浦和別所小	白幡中
C2	浦和別所小 (内谷校舎) ※1 ※2	白幡中 (新設沼影校舎) ※1 ※2
D1	西浦和小	田島中
D2	西浦和小 (内谷校舎) ※1 ※2	田島中 (新設沼影校舎) ※1 ※2
E1	辻小	南浦和中
E2	辻小	南浦和中

※1 ()内は、特定地域を表します。
※2 義務教育学校に就学する場合は小学5年生（義務5年）から新設沼影校舎となります。

2. 第一期開校準備委員会の意見交換内容について

■ ワーキンググループ

●カリキュラム

「制服の有無と金管バンドの活動」について、意見交換を重ね、一定の方向性を示すことができた。また、「日課表とクラブ活動のあり方」について、問題提起と方向性の提示を軸に意見交換を行った。

●学校生活

- ・学校生活のきまりについて、市立の小・中学校や他自治体の先行事例を参考に意見交換を行った。
- ・さわやか相談室・S o l a るーむについて、市立小・中学校の先進的な事例を共有し、意見交換を行った。

●学校地域協働

三つの学校が一つに統合して開校する上で、各関係団体が現在の活動を円滑に継続できるようにするための懸念事項等を洗い出すための意見交換を行った。

●保健室運営

保健室の納入物品について事務局案を共有し、関係校養護教諭と意見交換を行った。また、各校舎の危機管理対応マニュアルや校舎ごとのA E Dの配置など、学校安全に係る内容について共有した。

2. 第一期開校準備委員会の意見交換内容について

■ ワーキンググループ

●給食室運営

給食提供時間や回数の調整の必要性や、3校舎で統一献立としていく方針、及びそれに伴う機器の改修及び増設の必要性などについて、関係校栄養教諭と意見交換を行った。

●学校事務運営

開校後、義務1～4年生が教育活動を行う内谷中学校の校舎改修に関して、児童の視点による要望を改修内容に反映させるための見学会（令和8年度中に実施予定）を設けることについて、本部会に報告した。

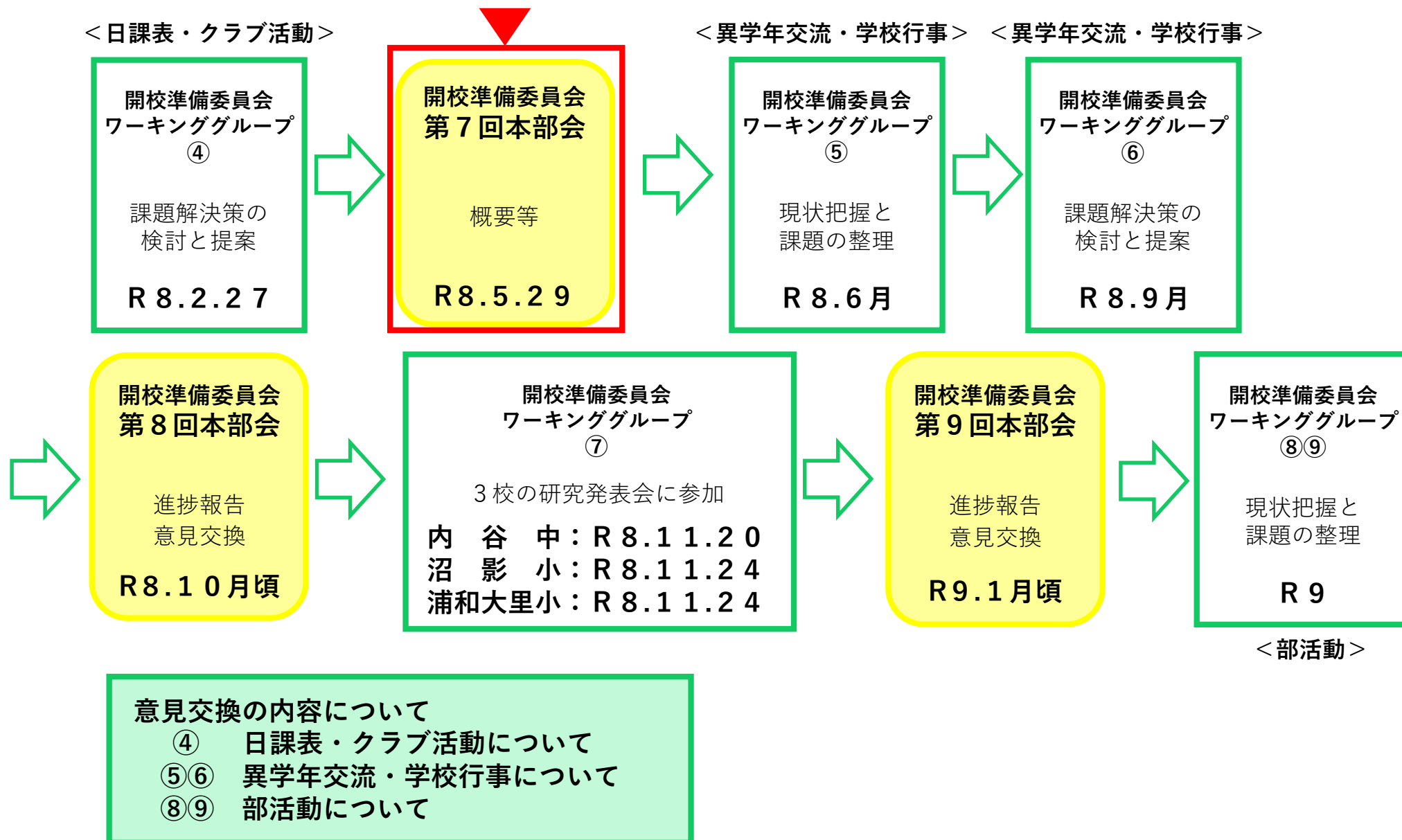
●校名・移行イベント

（令和7年度に全ての調査項目の意見交換を終了）

- ・校章・校歌、開校式の実施形態の決定の流れや、レガシースペースに置く物品の選定方法について意見交換を行い、方向性を整理した。
- ・校名アイデア募集（応募総数1,353件）を実施し、ワーキンググループとしての校名案の絞り込みを行った結果を本部会に報告した。

3.カリキュラムWGより（日課表・クラブ活動について）

■ スケジュール



3.カリキュラムWGより（日課表・クラブ活動について）

■ 日課表について

（1）第3回の意見交換を踏まえた情報提供

【第3回意見交換概要】

疑問に思うことや心配なこと・大切にしたいこと

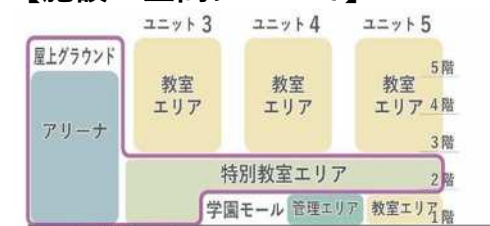
【施設・空間の重なり】

- ・「体育」と「業間休み・昼休み」の時間と施設の重なりが生まれるのではないかな。
- ・校庭の面積や特別教室の数などは、授業や休み時間での重なり課題も解消できる規模なのか。

【学習環境面・運営面】

- ・中学生が45分で学習するのは可能か。また小学生が50分で学習するのは可能か。
- ・これまでとおり45分と50分の授業を維持する場合は、校庭などの使用をどのように分けるのか。
- ・校舎が広いので、授業と授業の間は5分では足りないのではないかな。
- ・9年生の受験が心配。（集中できる環境が作れるか）
- ・子どもも先生も無理のないようにしたい。

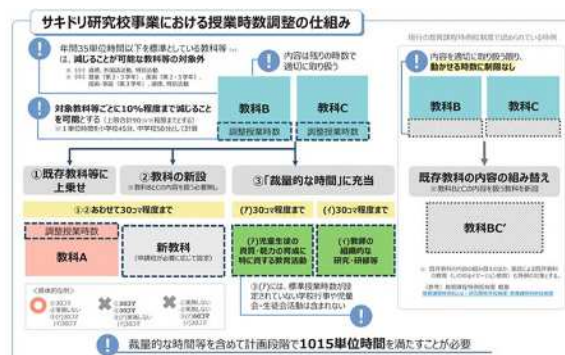
【施設・空間について】



【特別教室数】

	理科室	音楽室	図工／美術室	技術室	家庭科室
2階	9	4	4	1	4
1階	2	1	2	1	1

【学習環境面・授業時間等について】



（2）第4回意見の概要

（大切にしたいこと）（実現するための方策）

※保護者...【保】、青少年地区会...【地】
教員...【教】による意見

- ・【保・地】子どもがゆとりをもって生活でき、学びと遊びの両立が図れる日課であることが大切ではないか。
- ・【保・教】児童生徒の実態に応じて、どの学年も集中して取り組める環境を整えることが大切ではないか。
- ・【教】計画的な時間の使い方を学び、自分の「好き」を追究できる日課であることが大切ではないか。

～上記のことを踏まえた上で～

- ・【教・保】落ち着いて取り組める環境を、時間配分だけでなく学習・活動内容の工夫によって整えてはどうか。
- ・【教】1コマ45分を共通としつつ、90分などのまとまりある時間を設定し、地域と連携した学びに活用してはどうか。
- ・【保・地】帰宅の早い日の設定や給食時刻の見直しなど、従来の常識にとらわれない工夫を含め、子ども・保護者・教職員の声を反映しながら作成してはどうか。

（3）カリキュラムワーキンググループの意見交換を踏まえた今後の方向性

- ・子どもや保護者、地域の声を聞きながら、授業時間などは、従来の常識に捉われない工夫も含めて検討
- ・児童生徒の実態に応じて、落ち着いて取り組める環境を日課表の工夫に加えて、学習・活動内容も工夫をすることで実現することを検討

3.カリキュラムWGより（日課表・クラブ活動について）

■ クラブ活動について

（１）「関係校の活動」、「先行事例」

【関係校の活動】

（令和7年度）	沼影小学校	浦和大里小学校
活動学年	4～6年生	4～6年生
活動クラブ	【15クラブ】 ①サッカー ②陸上 ③ボール ④バスケットボール ⑤バドミントン ⑥卓球 ⑦ダンス ⑧音楽 ⑨室内ゲーム ⑩コンピュータ ⑪マンガ ⑫伝統文化 ⑬サイエンス ⑭工作 ⑮料理	【14クラブ】 ①マンガ、イラスト ②読書 ③卓球 ④クイズ、ゲーム ⑤調理 ⑥手芸 ⑦コンピュータ ⑧バドミントン ⑨陸上、鬼ごっこ ⑩ダンス ⑪ボールA ⑫ボールB ⑬理科 ⑭工作、折り紙
活動日	毎月1週目を除く 水曜日6時間目	毎月1週目を除く 水曜日6時間目

【先行事例】

【4年】 太子学舎	4年生のみで活動	(サッカー、バスケットボール、球技、バドミントン、 創作・イラスト、室内遊びの各クラブから選ぶ)
【5・6年】 畠田学舎	5・6年生で活動	

・校舎が離れた4年生と5・6年生は別々に実施しているため、クラブ活動における異学年での活動は実施していない。

	行事名（関係学年）
【全校】	● 全校交流会（1～9年生）
【校舎間】	● 朝活動（1・5年生） リハーサル登校（4・6年生）

校舎	行事名（関係学年）
【1～4年 太子学舎】	● レインボー集会※ ₁ （1・4年生、2・3年生） ● 1年生を迎える会（1～4年生） ● 運動会（1～4年生） ● 交流清掃（1・4年生） ※、王寺南義務教育学校独自の異学年交流会の名称

（２）第4回意見の概要

（大切にしたいこと）（実現するための方策）

※保護者...【保】、青少年地区会...【地】、教員...【教】による意見

- ・【保】校舎が異なっても一つの学校として、4～6年生を中心とした異学年交流を大切にする。
- ・【地】教科の学習とは異なる経験ができる場として、児童主体で、希望や少人数制を生かした活動として価値づける。
- ・【教】4年生を含む各学年に活躍の機会を保障しつつ、校舎ごとに異なるクラブの在り方も認める柔軟さを大切にする。

～上記のことを踏まえた上で～

- ・【教】午後に移動時間を含めた活動時間を確保し、校舎が分かれていてもそれぞれの活動場所でクラブを実施できるようにしてはどうか。
- ・【保・教】3・4年生が参加する場合には、クラブ数の調整や教員の支援を手厚くするなど、学年に応じた運営上の配慮を行ってはどうか。
- ・【保・地】年に数回の交流会の実施や地域人材の活用により、校舎を越えて活動を見合い、互いのよさを取り入れられる機会を設けてはどうか。

（３）カリキュラムワーキンググループの意見交換を踏まえた今後の方向性

- ・校舎は違っても1つの学校として、4～6年生を中心に検討
- ・子ども主体であることを踏まえ、校舎ごとにクラブを決めることを検討
- ・環境が子どもを育てる視点から、4年生が中心のクラブ活動も検討
- ・互いのよさを確認できるような校舎間の交流（対面・オンライン）の場を検討

【3年生参加】

- ・3～4年、5～6年で実施し、成長段階に応じた成長の機会を検討
- ・手厚い教員の支援が可能なクラブ数を検討